



未来を担う子どもたちを、 地域とともに育むまち

未来を担う子どもたち 1 人 1 人に、心豊かでたくましく成長してほしいという願いから、「知・徳・体」のバランスのとれた人づくりを進めています。

そのため「寺子屋事業」や「各務野立志塾」など、学校だけでなく、地域や企業などと連携して、子どもたちを育む、さまざまな事業を行っています。

関連する SDGs のゴール



(注) 新型コロナウイルス感染症の影響などにより、中止となった事業もあります

地域と連携して子どもを育てる



平成 26 年度にスタートした「寺子屋事業」は、「夢・目標」、「誇り」、「基礎学力」、「豊かな心」の 4 つをコンセプトに、さまざまな事業を展開しています。地域の方などが講師となって子どもたちの基礎学力の定着を図る「らら学習室（放課後学習室）」や「基礎学力定着事業」、「ものづくり見学事業」、「ふるさと歴史発見事業」、「福祉体験学習事業」など、子どもたちの興味に合わせて参加する体験活動も数多く用意されています。

事業は、市の産業や歴史、施設など市の特性を活かしながら、企業や個人など地域の協力のもと行われ、地域とともに子どもを育む事業となっています。

また、平成 29 年度以降各中学校区で「地域とともにある学校」づくりを掲げ、義務教育 9 年間を通して地域全体で児童生徒を育む「コミュニティ・スクール事業」に取り組んでいます。令和 2 年度からは、すべての中学校区で実施されています。

夢を育み、未来を切り拓く

平成 18 年度から行われてきた「各務野立志塾」。白川村を会場にした宿泊研修で、講話や自然体験などの活動を通して、次世代のリーダーを育ててきました。

今後は、児童生徒が自己を見つめる中で、将来の夢を思い描き、その実現に向けて何が必要かを考え、行動できるように後押しをする事業を予定しています。行政や企業のトップ、NPO 法人などを講師として迎え、さまざまなプログラムを通じ、自分の夢について考える事業です。自身の夢を力強く語り、目標をもって日々をたくましく生きていこうとする子どもたちを育てていきます。

人づくりを支える 「環境・土台づくり」を推進

先生も、さらにレベルアップ！

教育環境の充実には、児童生徒だけでなく、教職員の指導力向上も欠かせません。平成 29 年度に開設した各務原市教育センター「すてっぷ」では、教職員の指導力・実践力を高めることを目的に、経験豊富な特別指導講師による「パワーアップ塾」や「常勤講師・若手教員研修」、夏休みや夕方を利用した「夏季教職員研修」や「トワイライト研修」、学校のニーズに応じた「出前講座」など、教職員向けのさまざまな研修を行っています。研修を通じてレベルアップした教職員が、各務原市の人づくりを支えています。



安心で活力ある「学び場」を

子どもたちが、安心して学校生活や授業に取り組み、学力や社会性の向上が図られるよう、各務原市では支援体制を整えています。

各務原市教育センター「すてっぷ」では、生活や学習上の困り感などの悩みに対し、電話・来所・訪問相談を通して、専門家が 1 人 1 人に合うサポートを行っています。また、相談内容によっては、学校や関係機関と連携しながら対応をしています。子どもたちが安心して元気に学校生活が送れるように、支援体制の充実を図っています。

1 人 1 人に力をつける



学習の環境づくりとして、市が特に力を入れて取り組んでいるのが、ICT を活用した授業と、英語・理科教育の充実です。市内全小中学校の全学級に導入されたタブレット端末や電子黒板、書画カメラ、デジタル教科書などを活用し、子どもたちの学習への興味・関心を引き出しながら、主体的に関わり合って学ぶ授業づくりを進めています。

また、外国語学習では、子どもたちがネイティブの発音や表現に触れるため、外国人の英語指導助手（KET）を 15 人配置し、先生とチームティーチングで授業をしたり、学校生活の中で英語によるコミュニケーションをとったりしています。

理科では、授業を支援する「サイエンスアシスタント」を全小学校に配置し、子どもたちの実験や観察などをサポートしています。